

教科	工業	科目名	建築施工	単位数	3
学科	建築	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	「建築施工」(実教出版)				
副教材など	「建築施工管理技士 学科テキスト」(日建学院) 補助プリント				

1. 科目の目的

- ①建築施工全般にわたる基礎的な知識と技術を習得することをめざす。
- ②建築施工において、その知識を実際に活用する能力と態度を身につけることをめざす。

2. 授業の内容と進め方

本校では、講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけではなく、実習科目と連携をとって各種資格試験の取得にもつながる知識を習得しています。

3. 学習する上での留意点

特に実習及び課題研究にこの科目の内容を生かし、実際の建築工事の施工を通して学習を深めていくことが主になります。原則として全員が受験する「建築技術者試験」の試験問題にも含まれる内容でもあるので、合格めざして小テスト等も実施します。

4. 課題等について

単元ごとに学習到達目標に達しない生徒には、補習を実施します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	建築工事を行う上で必要となる建築施工に関する基礎的な知識と技術を身につけ、実際の建築工事の現場を観察し、実習において実務的な技能を活用し、表現をすることができる。
思考・判断・表現	建築施工に関する基礎的な知識と技術をもとに実際の建築生産技術について考え、また諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	建築施工に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その習得に向けて主体的に、意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。

6. 評価の方法

(1)出席状況 (2)授業の取組状況 (3)授業ノートの内容 (4)定期考査 などにより総合的に判断する。

《指導計画》 科目名 建築施工

2 学年

3 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1 建築施工のあらまし 1 建築施工にたずさわる人々 1 建築生産者 2 手続きに関する機関	○施工に関する人的要素としての建築主, 設計者と工事監理, 施工者それぞれの果たすべき役割を明らかにすると共に建築業務の企業形態, 経営組織, 下請建設労働者の内容について学習する。	確認テスト 期末考査
	5	2 建築施工の流れ 1 工事の準備 2 地面から下の工事 3 躯体の工事 4 仕上げの工事	○工事計画や管理について基本的な事項について, そのあらましを理解できる。	
	6	5 設備の工事 6 各種検査 建築物の保全 解体工事 期末考査		
	7	2 工事の準備 1 地盤調査 2 敷地の調査・確認	○施工計画をたてるため, 敷地とその地盤の綿密な調査が必要であることを認識させ, 調査の方法について学習する。	
		2 仮設工事 1 仮設工事計画	○敷地測量, 工事測量のあらましについて学習する。	
		2 仮設建築物 3 工事設備 4 工事測量 5 足場 6 災害防止設備	○仮設工事の必要性と種類を理解しそれぞれの目的及び関連を知り, 実習等を通して実際の作業と連動させてその内容を理解できる。	
		10 中間考査		
二 学 期	10	3 地面から下の工事 1 土工事及び杭・地業工事の流れ 2 土工事・山留め 3 杭工事	○土工事の種類と各種山留め工法の特徴及び排水工法について学習させる。	中間考査 期末考査
	11	4 地業工事	○地業工事の種類と特徴について学習させる。	
		4 木構造の工事 1 基礎 2 在来工法の骨組 期末考査	○木材を使用する長所・欠点について理解させる。	
	12	3 枠組壁工法の躯体 4 外部仕上げ 5 内部仕上げ	○在来工法と壁式工法の違いを理解させる。	
		1 5 鉄筋コンクリート構造の工事 1 鉄筋コンクリート工事 2 基礎 3 躯体の工事	○躯体の寸法精度に注意させ, 支持方法や存置期間などについて理解させる。	
三 学 期	2	4 外部仕上げ 5 内部仕上げ	○鉄筋の定着長さ・かぶり厚さの確保の重要性を理解させる。コンクリートの発注・検査について理解させる。	期末考査
	3	6 鋼構造の工事 1 基礎 2 骨組(柱と梁) 3 スラブ 期末考査	○工場での鉄骨工事の流れを理解させる。 ○現場でのアンカーボルトの据え付けにともなう基礎工事について正しい施工法を理解させる。	